

CRT 栃木放送両毛支局にて収録

「自分で勉強する」時の効果の上がる方法を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

<はじめに>

1. 大切な科目を確実に、うんなるほどとよくわかる、腑に落ちる、つまり、「理解」し、身につける、つまり、「定着」させ、自分のものとして自由自在に活用できる、つまり、「応用」力をつけるために、自分自身で本や教科書やテキストにあたるものを勉強しなければならないことが多いと思われれます。

どのような方法で一人で机に向かい、本を読み、内容を理解し、定着させ、応用力を身につけたらよいのかを本日は考えます。

<勉強の目的を明確にする>

2. 何のために今、この勉強をするのか、その目的を明確にすることです。

授業の予習のためにするのか、復習のためにするのか、定期テストのためにするのか、入学試験や資格試験のためにするのか、その目的によって勉強の仕方は全く変わってきます。

<時間を大切に>

3. この瞬間は今しかない。今、この勉強をしないと一生できないと考えて机に向かうことです。

10分後、このページはこの世から消滅する、世界から無くなってしまおうと考えて、目の前にあるテキストのそのページに取り組むと勉強にスピードが出ます。

<勉強すべき内容の全体像をつかむ>

4. 一体これからどのような勉強をするのか、その流れをつかむためにテキストの項目だけでもザーと目を通すことです。大きな流れを頭に入れることが大事です。

<とりあえず、うんなるほどと「理解」する>

5. その上で、学ぶべきテキストの内容を一心不乱に集中して一語一句確実に、これはどのようなことを考えながら読むこと。よくわからなければ同じところを2回、3回、4回、5回と繰り返し読むこと。

語句の意味がわからなければ辞書を引いて意味を確かめる。その確かめた意味をテキストやノートに書き残しておくこと。

<定義は覚えること>

6. 「～は だ」という定義は確実に覚えること。「ノート」に書き残しておくこと。書きながら覚えること。

7. <同じテキストは6回勉強しなおす>

<おわりに>

8. 仕事や社会で活動する上での知識を身につけるときにもこの方法は役に立ちます。活用して下さいね。

- 2009年8月1日 -